

1 取組のねらい

部活動の「地域連携・地域移行」モデルの実現可能性について検証を行う経済産業省のモデル事業として、大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所と共同して実施。様々な特性を有する区を選定して、地域特性に応じたモデル拠点を設定。

①学校部活動との関係

- ・管理責任の整理
- ・教員の兼職兼業

②利用施設・場所の確保

- ・施設利用責任の整理
- ・施設利用料と金額の妥当性

③指導者の質と量の確保

- ・指導に必要人数の算定と確保
- ・指導人材に対する講習内容の検討

④受け皿の確保と事業の収益性の確保

- ・受益者負担の可否と金額の妥当性
- ・収益化の検討

2 モデル拠点(②ブロック 都島区を除く)

①ブロック 東淀川区

【区の特性】

市内でも中学生数が上位の区。対象となる3中学校周辺には、民間フィットネスクラブや大学、総合型地域スポーツクラブなど、地域団体組織が比較的多く存在。

【今年度の取り組み】

フィットネスクラブ、NPO法人、総合型地域スポーツクラブ、大学による、水泳(1/15)、サッカー(1/15)、バドミントン(1/14)、陸上(1/29)の事業を実施。

③ブロック 西区

【区の特性】

人口急増エリアを含む企業集積地。区内には中規模校が2校、大規模校が1校、計3校がある。

【今年度の取り組み】

既存の部活動指導員、企業の社会貢献活動の一環として活動するスポーツクラブによる、卓球(1/28)、陸上(2/18)の事業を実施。

④ブロック 東住吉区

【区の特性】

区内中学校は比較的多いが中規模校が4校、小規模校が3校。先行して矢田3中学校では地区の拠点校方式による部活動を開始している。

【今年度の取り組み】

拠点校方式で実施していたモデルを母体として、サッカー、ダンス、バレーボール(2/19)の事業を実施。

